

白鳳時代の地方豪族の寺院跡

八高麿寺



指定区分	県指定史跡
読みかた	はっこうはいじ
所在地	倉敷市真備町妹
指定年月日	昭和34年3月27日
解説	白鳳時代の寺院跡で、寺域や伽藍の配置は判明していない。長径1.9m、短径1.4mの塔心礎が残っており、中央には直径24cm、深さ15cmの円孔がある。かつて付近一帯からは瓦が多数発見されている。この地方の豪族がいち早く仏教文化を取り入れて寺院を建立していたことが分かる。奈良時代、鎌倉時代の瓦も出土しており、寺は長く存続したようである。
アクセス方法	井原鉄道「備中呉妹駅」から0.6km
公開状況	自由
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	八高廃寺
よみかた	はっこうはいじ
しょざいち (所在地)	倉敷市真備町妹
していたひ (指定した日)	昭和34年3月27日
せつめい	白鳳時代(はくほうじだい)に建(た)てられたお寺の跡(あと)です。お寺の範囲(はんい)や建物(たてももの)の配置(はいち)は分かっていません。付近(ふきん)からは建てられたときの瓦(かわら)がたくさん発見(はっけん)されています。